

今北地区伊勢講史料概要

- 1: 文書群番号 102043
- 2: 文書群名 今北地区伊勢講史料
- 3: 出所 ①周旋講
②名称未詳講
- 4: 家業・役職等 今北村伊勢講
- 5: 地名 摂津国武庫郡今北村／兵庫県武庫郡今北村／武庫郡大庄村今北／尼崎市今北／尼崎市大庄北ほか
- 6: 行政区分 幕府領／尼崎藩領／兵庫県第8区／西新田組戸長役場／大庄村／尼崎市
- 7: 歴史
今北は大庄地区の大字で、市域西部に位置する。天明8（1788）年の今北村は家数57軒、人数279人である。今北村には4つの伊勢講が存在した。本文書群は周施講および名称不明の講の史料からなる。かつては両講に参宮の慣習は無く、文政11年（1828）まで1・3または4・6・8・11月を中心とした年5回の講が開催されていた。しかし翌文政12年からは両講とも年3回、さらに明治29年（1896）からは年2回、明治43年からは1月のみの開催となっている。開催日は1月の11日だけは固定、その他の月においてはほぼ1・6・16日（11・21・26日はやや少ない）のいずれかであり、六斎休暇（農繁期の1・6の付く日を休日とする風習）との関係が考えられる。両講の伊勢参宮は、それぞれ大正4年（1915）と大正15年から開始しており、以降は毎年2人が代参した。昭和50年代に入ると代参形式の伊勢講は終了し、講員による慰安旅行に変わる。その後二つの講は相前後して活動を止めた。講員は、各家の長男から構成されており、その人数は、近世期において周施講が5～14人、もう一方は7～11人、近代以降は7～13人（周施講）、5～13人で推移している。
- 8: 伝来
講の活動停止後に地区の鎮守社・大島神社に預けられていたが、平成15年（2003）2月に橋本氏より借用。16年5月に整理・目録作成を完了し、同年6月に受贈した。
- 9: 史料入手先 橋本則男氏
- 10: 点数 171点（目録件数140件）
- 11: 年代 宝暦4年（1754）～昭和60年（1985）
- 12: 構造と内容
本文書群は、寄贈者の橋本氏所属の講（周施講一箱1・3・4）と、松本氏が所属していた講（名称不明一箱1・2）の史料からなる。主に①伊勢講関係、②土地・貢租関係が中心をなす。①の開催記録（「伊勢講入用割り帳」）は数年分の欠落はあるものの、近世期～現代までの講状況をたどることが可能である（名称不明講は安永6年・1777～平成6年・1994、周施講は天明3年・1783～昭和45年・1970まで）。②は伊勢講田に掛かる年貢・諸役関係である。尼崎市域において、近世から現代にわたる伊勢講関係史料が文書群として存在する唯一のものである。
- 13: 関連史料 今北地区に関する文書群として「今北部落有文書」「島中勝雄氏文書」がある。
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 近藤浩二